



徳成寺 寺ともかわら版 第164号 2020年8月



いつもありがとうございます。住職の大山です。

新型コロナの第二波が懸念される今日この頃ですが、

いかがお過ごしでしょうか。そういう時期だからこそ徳成寺では、

コロナの収束を願って、秋の法要をお勤めすることに致しました。

コロナによって、人との接触が制限され人間関係が引き裂かれていますが、

いつか必ずつながりが取り戻せる日が来るのを信じて、法要を執り行います。

長い歴史の中でわざわざ起きる都度、人々は祈りを捧げて参りました。

祈りを捧げたからと言って、わざわざ消えてなくなるわけではないと、

どなたも分かっていますが、だからこそ祈りを捧げずにはられません。

人との接触が制限されても、みほとけの前で共に祈りを捧げましょう。

発行責任者
住職 大山健児
坊主 大山ひとみ



大山超世の耳を澄ませば

いつもお世話になっています、長男です。

弟の仕事が忙しくなったことでかわら版プラスでの連載がお休みになりました。私自身がいわゆるアラサーに差し掛かっている今でも兄弟の関係性は殆ど変わっていません。私よりも背が高くなっても、年齢を重ねても、兄と弟という関係性で接していましたので、かわら版の連載も含め、変わらない日々がこれからも続くものだと思っていました。しかし、住職が Youtube に投稿した法話の中で移り変わりゆく状況にも柔軟に対応し、新しい自分に出会っていくことの大切さについて述べているように、よくよく考えると彼も社会人になり、学生とは全く違う環境の中、よくやってくれていたのだと思います。普段は兄という立場でしか弟の事を見ませんが、弟は自分の仕事で一人前になると努力をしています。兄弟という関係性だけではなく、1人の自立した大人になろうとしていることを受け入れる時が来たのだと感じております。写真は弟が栃木から帰ってきた時に撮った写真です。大変だろうけど、頑張る。

